

28AB-pm086

地域で開催された健康イベント参加者に対する糖尿病に関する啓発活動報告
～自己血糖測定とHbA1c測定を通して～

○照井 絢佳¹, 阿部 真也², 橋本 義人², 吉町 昌子², 野村 和彦², 後藤 輝明² (1ツルハ元町駅前店, 2ツルハ調剤運営本部)

【目的】国民医療費の急激な増加や医師不足による医療制度の疲弊等から国民の健康増進と未病への対応において、一番身近な薬局および薬剤師の活躍が期待されている。そこで、セルフメディケーションを推進する1つの手段として、健康イベント(ツルハフェスタ)において、イベント参加者が、HbA1cの測定を通して、糖尿病に関する理解を深め、早期発見早期治療について理解を深めていただく啓蒙活動を実施した。【方法】2015年5月16日(土)、17日(日)に実施されたツルハフェスタ会場内に、薬局申請を行い、検体測定室として申請し、2日間で自らHbA1cを測定した方が、計140名であった。HbA1cは、ロシエ製のQuo-Lab(クオラボ)を用いて測定を行った。また、検査の前後で意識調査のアンケートを実施した。【結果】HbA1cの数値は、6.5%以上140名中2名(1.4%)おり、2名とも7%を超えていた。年齢別では40代が多く、男女比は約1:9で女性が多かった。アンケート結果より今後もHbA1cを利用したい方が24.6%いた。

【考察】異常値を示す人は多く見られなかったが、6.5%以上の数値のどちらもが7.0%を上回っていた。前年度ではHbA1cを実施した人は81名だったが今回では140名と多く、さらに今後も実施していきたいと答えた人も多かった。また、検査後の意識が変わったことの項目の中で、検査のしやすさという点が26.5%と一番多かった。このような、健康イベント会場でHbA1c測定を利用することにより、気軽にセルフチェックを行う利用が増えることが、セルフメディケーションに対する意識の向上につながり、国民の健康増進と未病への対応に寄与することができると思う。